

旧石器時代の遺物から江戸時代の古文書、戦時中の写真まで、武蔵野市にはその歴史を物語るさまざまな資料が受け継がれています。こうした資料に直接触れ、地域の歴史を学ぶための施設として、旧西部図書館の建物を活用した「武蔵野ふるさと歴史館」が昨年12月に開館しました。考古・歴史・民俗資料を収集、保存、研究、展示する博物館機能のほか、歴史的な価値がある公文書を保存、公開する公文書館機能、歴史文化を中心とした交

歴史博物館と公文書館の機能を備えた施設



1 階

A ガイドスエリア

市の歴史の移り変わりを一望できる象徴的な写真で構成したグラフィックと、歴史や地勢、自然についてガイドスを行うタツ

チモニターを設置。画面にタッチすると3～5分の映像が流れます。床には、現在の武蔵野市の航空写真が広がっています。



B 第一展示室 (武蔵野展示室)

原始・古代→中世→近世→近現代と時代を追って歴史的資料を展示。市内で出土した石器や旧家に伝わる古文書、戦時中の中島飛行機関連の写真など、資料やパネルを通じて市の歴史を学べます。展示室の中央には、農具やうどんを作る道具などの民俗資料を展示。

C 第二展示室 (企画展示室)

定期的にテーマを変えて企画展を行うスペースです。3月現在、学校教育連携展示として「武蔵野の暮らし今昔」展を開催中。



D 市民スペース

来館者が歴史や文化に関する学習活動に使用できるスペース。主要新聞6紙も自由に閲覧できます。今後は閲覧できる資料を

拡充していく予定。そのほか、展示イベントや講演会なども開催できる自由度の高い空間です。

特集② 武蔵野ふるさと歴史館へようこそ

特集② むさしのの歴史に触れる

約3万年前の石器が発掘されるほど、古くから人が暮らしてきた武蔵野市。貴重な古文書や資料などを通じて、その歴史と文化を学べる「武蔵野ふるさと歴史館」が昨年12月に誕生しました。

利用案内



所在地 境5-15-5
電話 0422-53-1811
アクセス JR中央線・西武多摩川線武蔵境駅から徒歩12分。またはムーバス境西循環0番「武蔵境駅北口」から4番「武蔵野ふるさと歴史館」下車すぐ。
開館時間 午前9時30分～午後5時
休館日 金・土曜日、祝日、年末年始
入館料 無料

流スペースを持つことも大きな特徴です。
武蔵野市では昭和37年に市史編さん事業が始まって以来、江戸時代の古文書や古い農家に伝わる民俗資料などを調査し、市の歴史と文化を後世に伝えるための取り組みを進めてきました。武蔵野ふるさと歴史館ではこうした取り組みをさらに進めるとともに、その成果を企画展などでも公開していきます。

2階

E 会議室

歴史や文化に関する講座など、武蔵野ふるさと歴史館主催の各種講座やイベントを実施します。会議・会合などへ一般貸し出しも行います。ピクチャーレールが3面に設置されていて、同館の目的に合えば、展覧会などのイベントを開催することも可能です。



● 会議室の利用案内

座席数	30席
備品	ホワイトボード、DVDプレイヤー、プロジェクター、スクリーン
使用料	午前9時30分～正午：800円 午後1時～4時30分：1200円

※詳細はお問い合わせください。

民俗資料収蔵庫

およそ江戸時代後期から東京オリンピック頃までの、武蔵野市内に伝わる民俗資料を収蔵。脱穀機や石臼、五右衛門風呂など、地域に伝わってきた農具や生活道具を中心に収蔵しています。多くの資料が市民の方からの寄贈によるものです。



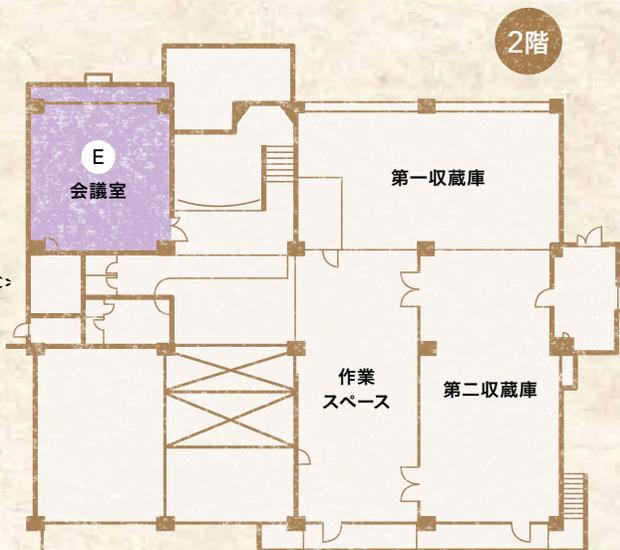
歴史公文書収蔵庫

武蔵野市役所の公文書で保存期間を過ぎ、行政での役割を終えた非現用文書の中から、歴史的・文化的価値があるものを選別して収蔵しています。個人情報や他人の利益を害する恐れがあるものを除いて原則公開。館内の目録で検索し、窓口で請求することで閲覧できます。

1階



2階



中世

ブース



井の頭池周辺から出土した板碑を展示。板碑とは亡くなった人の供養や生前供養のために造立された供養塔の一種で、鎌倉・室町時代にかけて盛んにつくられました。

原始・古代

ブース

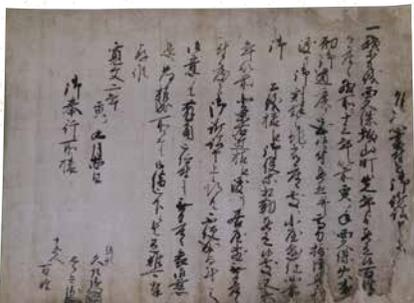


旧石器時代の狩猟に使用された尖頭器やナイフ形石器を展示。縄文時代の深鉢や浅鉢などの土器、祭祀の道具として使用されていたと考えられる土偶や石棒、狩りの道具の石鏃、土掘りのための打製石斧も見ることができます。

近世

江戸から来た村

明暦3年(1657)1月18日から20日にかけて、江戸は大火事に見舞われました(明暦大火)。天守閣を含め、江戸の大半を焼き尽くした大火の後、幕府は江戸の都市改造を推し進めていきます。その政策のひとつに、近接する百姓地を武家地に振り替えていくがありました。行き場を失うこととなった百姓らは、幕府に代替地を願い出ました。こうして与えられたのが幕府御用萱場の「牟礼野」(現武蔵野市周辺一帯)でした。吉祥寺村は現在の文京区から、西久保村は現在の港区から移ってきて、旧来の村名を名乗りました。吉祥寺にその名で呼ばれる寺院がないのは、こうした事情からで、寺院自体は駒込に移されました。寛文2年(1662)の「西久保百姓替地願書」(=写真)は、武蔵野市に関わる古文書では最古のものとなっています。



原始・古代

石器から見える3万年前の暮らし

写真(上)は約3万年前の地層から出土した台石と呼ばれる石器です。老舗焼き鳥店・いせや公園店(吉祥寺南町1-15-8)の敷地から出土したもので、石器をつくる際の台として使用していたと考えられます。この台石が発見された井の頭池遺跡群(武蔵野市・三鷹市所在)には、旧石器時代、縄文時代など多数の遺跡が発見されており、一部が東京都の史跡に指定されています。井の頭池の湧水と日当たりの良い台地が、原始・古代の人々の生活を支えていたのでしょう。市内で出土した石器には、武蔵野近辺からは産出されない黒曜石を使用しているものもあります。これらの黒曜石は、伊豆や箱根、東京・神津島などで産出されたものであることが確認され、各地と交易があったことを物語っています。

▶石器の素材となる剥片、石刃も発見されている



展示から学ぶ

むさしの歴史秘話

原始・古代から近現代まで、武蔵野の歴史が一望できる第一展示室。その展示物の一部から、武蔵野の歴史をひもといてみましょう。

近現代

ブース



村々が合併して武蔵野村が誕生した様子をはじめ、JR中央線の前身となった甲武鉄道の開通、戦中・戦後の生活状況などを当時の資料や写真をもとに紹介しています。

近世

ブース



現在の武蔵野市のルーツとなった、4つの村(吉祥寺村、西久保村、関前村、境村)の成り立ちとともに、農村の暮らしやむらの学問、民間信仰の様子などを紹介。江戸の下肥仕入れ先を記した古文書といった興味深い資料も見ることができます。

近現代

米軍の戦略爆撃と武蔵野

昭和19年(1944)11月24日以降、計9回にも及ぶ爆撃で壊滅状態となった中島飛行機武蔵製作所(現在の都立武蔵野中央公園周辺)。同製作所では、主に戦闘機のエンジンを製造していたため、米軍の攻撃目標とされました。工員のみならず、周辺住民も大きな被害を受け、防空壕に入った家族全員が生き埋めになる被害もありました。展示されている木製プロペラ(=写真)は、現在のNTT武蔵野研究開発センタ付近にて、エンジンの試運転に使用したものとわれています。また、同製作所には病院や青年学校も併設されましたが、同館ではそれらの様子が伺える資料も展示しています。設置されたモニターをタッチすると、病院や製作所の地下に張り巡らされていた地下通路など、戦時中から現在までの製作所やその周辺地域の様子を写真や動画で自由に見ることができます。

約2.8m



近現代



東京中を騒然とさせた御門訴事件

明治3年(1870)1月10日夜、日本橋浜町にあった品川県庁門前に、関前新田を含む武蔵野新田12カ村の農民ら数百名が詰めかけました。飢饉に備えて穀物を貯える社倉制度(実際は社倉金の納入)の実施命令が、事件の始まりでした。村むらの現状や従来の仕法を無視した、一方的な県のやり方と役人らの不誠実な対応が、小前百姓を中心に反発を招いたのです。他方で品川県も、明治政府の意向を受けて財源を確保すべく、県下に公平平等な負担を求めたのでした。東京中が騒然となった事件は、多数の逮捕者のみならず、^{ろくろし}牢死者まで出す結果となり、社倉制度も行政区域の変更で明治4年分をもって中止されました。事件を記念した「^{しんすいひ}倚錘碑」(=写真)が八幡町の五日市街道沿いに建っています。倚錘とは、^{すき}錘にもたれて往時を回顧するという意味で、碑は明治27年(1894)に建てられました。

「武蔵野市の歴史を一望できる場所」として、ここでは武蔵野市に伝わる古文書や考古資料、民俗資料のほか、歴史的価値のある公文書も保存、研究の対象として公開していきます。歴史を100年、200年先の後世に伝えていくことは、現在の私たちの責任。今後はワークショップなども企画し、市民の皆さんが自ら学ぶお手伝いもしていきたいと思っています。

田川良太 館長

